

会議録（要点筆記）

会議名	「まいばら福祉のまちづくり計画」の中間評価ワーキング 基本目標Ⅲ
開催日時	平成29年1月25日（水）19：00～20：30
開催場所	米原市役所 山東庁舎別館2階 会議室2AB
公開・非公開	公開
傍聴人	なし
出席者	出席委員：5人 三澤委員、伊藤委員、福永委員、振角委員、北森委員
	事務局：9人 市：堤くらし支援課長、高木課長補佐、西村、亀山 市社会福祉協議会：田中地域福祉課長、村山課長補佐、中川、伏谷、膽吹
件名	(1)「まいばら福祉のまちづくり計画」の中間評価について 【資料3】 基本目標Ⅲ「総ぐるみによる福祉のまちづくり体制の構築」についての振り返り
<p>内容（概要）</p> <p>1 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市では、市民一人ひとりが住み慣れた地域や家庭で自立し、心豊かな生活が送れるよう、共に支え合う地域社会を計画的かつ総合的に推進するため、平成26年度から平成30年度までの5か年計画として「まいばら福祉のまちづくり計画」を策定している。 ・今年度は、平成26年度から計画に基づく取組を始めて2年が経過し、この間実施されてきた取組を振り返って、今後の2年間につなげていこうとするもの。 ・昨年11月9日に第1回地域福祉計画推進会議を開催し、委員から活発な御意見をいただいた。 ・会議では限られた時間内に議論しきれない状況だったため、ワーキングを設けて議論する。 ・ワーキングは基本目標ごとに3日間（1/23、1/25、1/30）に分けて実施する。 <p>2 内容</p> <p>本目標Ⅲ 総ぐるみによる福祉のまちづくり体制の構築</p> <p>(1) つながる仕組みを強化します</p> <p>① 総ぐるみ連携体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困りごとの把握 くらしの相談 経済的1,000件－ケアマネ、関係機関へつないでいる。 活動 民生委員、ボランティア－970件 ・高齢者、障がいのある人の相談は多い。子どもの相談は少ないが、ファミリーサポートセンターに預かりの相談はある。 ・社協で受けた相談を市地域包括が既に対応している場合がある。 	

→情報の共有が十分にとれていない。

- ・具体的に解決していく時に、一番身近な自治会にもつないでいくべきではないか。
→民生委員と自治会の連携 *ケースによって知られたくないこともある。

・福祉協力員

- ・地域によって名称が違う（伊吹：福祉委員、山東：福祉協力員、近江：福祉推進員）。
役割も地域、自治会によって様々。旧町時ルール
- ・通知がきたが依頼元が分からなかった。
- ・役割が分からない。→やりがいがない。
- ・任期が終わって引き継ぎする時に説明できない。→宙に浮いている。
- ・昔は社協会長から委嘱していたが、今は委嘱していない。
- ・毎年4月には合同（民生委員、自治会長、福祉推進員）説明会を行っているが、研修としては不十分。
- ・春照の福祉委員は13人設置していて充実している。年に1回の反省会、組ごとのつながりが強い。

*米原市として方針を決めていくべきか？

- ・サロンは平日開催—子どもは参加しづらい。土日は家の用事、夏休みにしても参加者は少ない。→子ども会と一緒にしてはどうか。

・農業、商業との連携

- ・市内全域を対象として「まいばらまるごと交流会」を開催している。
ゆるいつながり。→作りだす。
- ・買物に困っている地域と商店をつなぐ。—移動販売
- ・活動者同士がつながる場。

旧町単位、学区単位—嫁いだ人は白紙、元々いる人は学区を意識している。

転入者は、自治会、旧町、学区意識はない。

区分けすることによってサービスは異なってくる？

- ・米原市は自治会の役割が大きい。
 - ・福祉単独では機能しない。市のサービスをいかに住民に知らせるか。

② 災害時協働体制の構築

- ・除雪—シルバーへの依頼が多い。シルバーでは全地域に会員を置くことを目指している。
屋根の雪下し→受けていない。
道→ボランティアの設置（市の保険に加入）、自治会の除雪機を借りる時もある。
- ・防災 年々充実している。要支援者の取組は難しい。
要支援者名簿—取組の進んでいるところ→確認してもらう。
進んでいないところ

→これを題材に日頃からのつながりを構築してもらう。

要支援者—子どもが大勢いる親は対象になる？ 要配慮者として手を挙げて登録

日頃から知っておいてもらう。訓練に参加してもらう。

自主防災組織が主体

(2) 福祉人材を育みます

① 人材の育成

- ・ボランティアの受け入れ側への説明はできている？

→マッチングの時にボランティアと受入側の思いのズレを解消する。

② 社関係事業者等、事業者等の地域福祉への参加促進

- ・ルッチまちづくり大学—地域、仕事、年代の違う人が一緒に学ぶのが魅力

効果

- ・まちづくり関係者に出身者が多い。
- ・お茶の間から受講をすすめているところも。
- ・若い年代
 - ・地域でしていることが少ない。
 - ・子育て、仕事に追われている。
 - ・同じ地域に住んでいる人と話す機会がない。
 - ・総会がない自治会もある。規模にもよる。
 - ・子育てしている親は会合の時間出にくい。参加しやすい日程にするとか、子どもを連れて行ってもいいとか、工夫や配慮をしてほしい。調整がめんどくさい→参加しない。
 - ・男性—消防団がある。
女性—女性の会がなくなると、自治会に女性の意見が通らなくなる。
若い人と年上の人とで意見が合わない。
- ・スクールガードをしているが、連れて帰る子どもは数人で、ほとんど学童へ行く。

以上